



答えの無い問いを探していく。そんな時代だから目指す方位を指し示すものが必要だ。そのようなものに私はなりたい。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、活用しましょう！！

教科に関する調査（平均正答率）

小学校	全国	千葉県	自校	中学校	全国	千葉県	自校
国語	67.2%	67%	%	国語	69.8%	69%	%
算数	62.5%	62%	%	数学	51.0%	51%	%
				英語	45.6%	46%	%

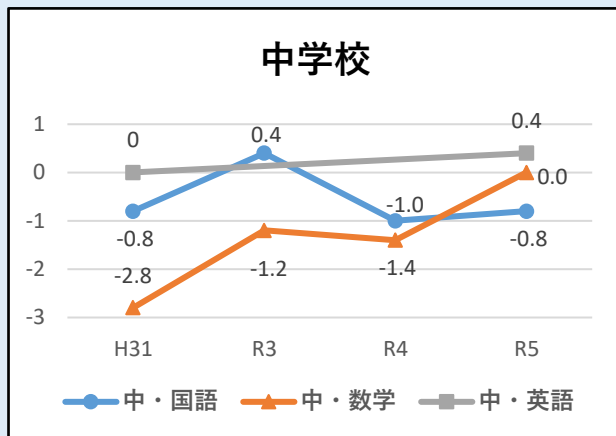
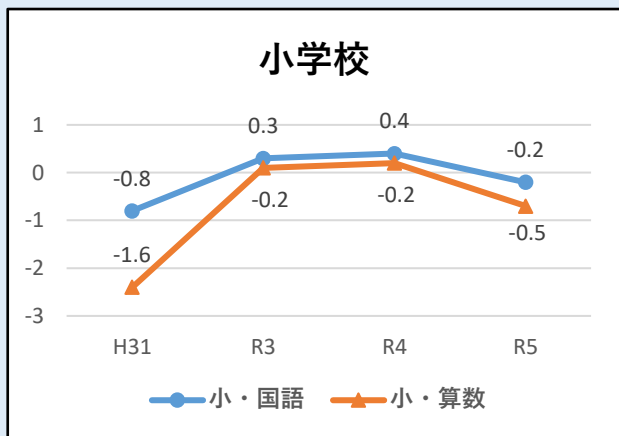
※千葉市を含む公立学校の結果です。
※中学校英語は「話すこと」以外の結果です。



全国と千葉県を比較すると同等の状況です。まず、先生方が、自校の実態を把握することが大切です！ 自校の結果を、上の表に記入してみましょう。

【千葉県の平均正答率の推移】

※グラフは全国平均との差で示しています。



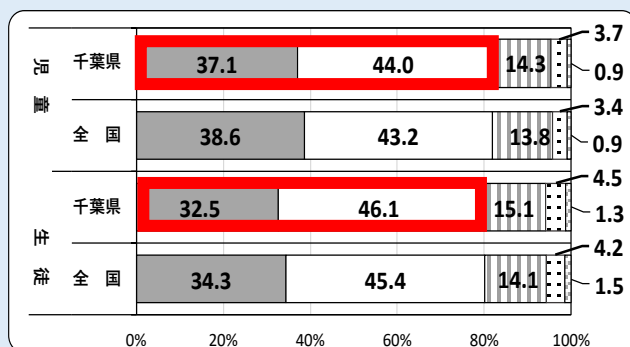
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

○学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。【児童質問紙36・生徒質問紙40】

当てはまる どちらかといえば、当てはまる



R5



千葉県の肯定的回答の割合が、昨年度と比較すると小学校・中学校ともにそれぞれ増加しています。今後も主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいきましょう。

調査結果を分析・活用するには・・・

そもそも全国学力・学習状況調査の分析ってどうすればいいんですか？

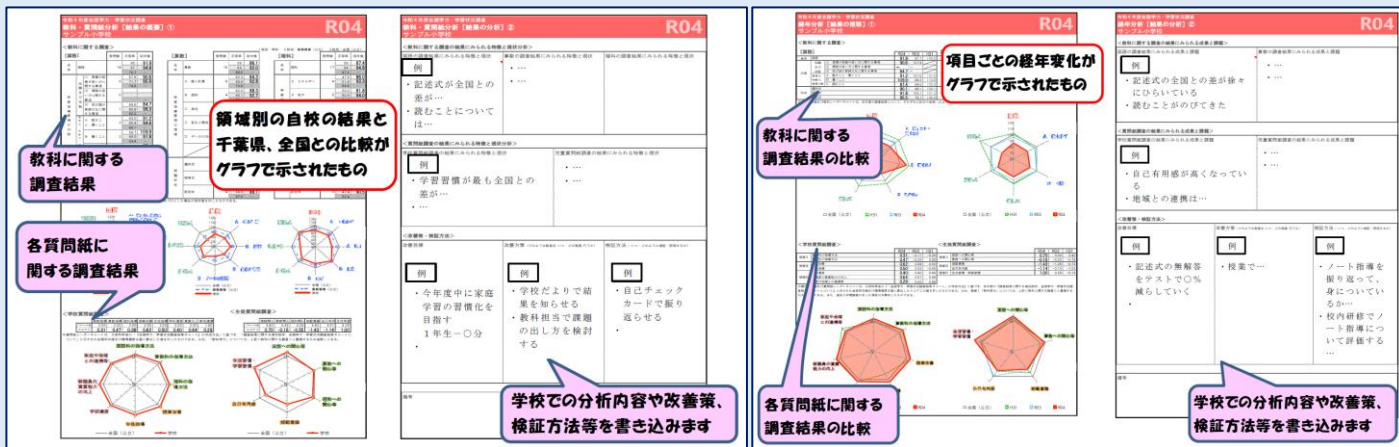
県の分析ツールを活用すれば、さまざまな分析ができますよ。

分析ツールとは？

文部科学省から提供される調査結果データを簡単な操作で可視化して、実態把握や授業改善サイクルの確立を支援する千葉県独自のソフトです。

教科・質問紙分析シート

経年分析シート



※「令和4年度 学力向上の手引き」より

なるほど！「教科・質問紙分析シート」は、数値の表とレーダーチャートで見やすいですね。さらに「経年分析シート」を見ると学校としての成果や課題を明らかにすることができそうですね。

この他に「クロス集計シート」もあります。児童生徒の生活習慣や学習習慣と学力の関係を確認ができ、学校だよりや保護者会でも活用することができます。

「令和5年度版分析ツール」は8月末～9月上旬ごろに千葉県総合教育センターのホームページにアップされる予定です。また、令和5年7月18日付け総教セ第468号で、分析シートを活用した結果分析等についての動画の案内もしています。こちらも御覧になりながら、自校の結果をきちんと分析して学校全体で授業改善につなげたり、児童生徒の学習改善につなげたりしていきましょう！

「令和4年度 学力向上の手引き」はこちらから[ダウンロード](#)できます。

学力向上の窓 明日の指導改善のヒントは、質問紙調査にあり！！

例えば、表面の児童生徒質問紙の内容と対応している学校質問紙の項目は小・中学校とも【29】になります。自校の児童生徒の回答の様子と学校の回答の様子について比較することもできます。

また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する取組状況や児童生徒の学習時間、教科に対する興味・関心、ICTを活用した学習状況等、指導改善のヒントは質問紙調査の結果から見いだすことができます！是非、活用を！！